

血液透析患者の ASO に対する DFT 法、LDL 吸着法交互施行法の検討

衆和会 長崎腎病院

矢野利幸、高木伴幸、宮崎健一、李嘉明、原田孝司、船越哲

【背景・目的】

DFPP の変法である DFT 法は、LDL 吸着法と同等の脂質系溶質除去が可能であるが、Ig - M が低下するため適切な治療間隔の決定が困難である。今回、われわれは、LDL 吸着法と DF サーモ法を交互に施行し、DFT 法の適切な治療間隔及びその治療効果の検討を行った。

【対象】

Fontaine II 以上の ASO を呈する当院の透析患者 10 名 (男性、平均年齢 77.1 ± 7.6 歳、DM9 名、NDM1 名)

【方法】

対象患者を LDL 吸着単独で施行する (LDL 吸着群 n : 7) と LDL 吸着と DFT を 1 週間毎交互に施行する (DFT 群 n : 3) に分類し、LDL-A を週 1 回の頻度で 10 回施行し生化学的パラメータの比較と自覚的臨床症状の評価を行なった。

【結果】

①LDL-Cho の除去率は DFT 群で平均 69.1%、LDL 吸着群で 56.0%、Fib の除去率は DFT 群 42.1%、LDL 吸着群 30.1% であり、有意差は認められなかったものの、DFT 群のほうが除去に優れていた。

②DFT 群では Ig - M が平均 58.7% 除去され、リバウンドまでに 2 週間を要した。

③SPP 値は、LDL 吸着群は治療前 40.7 mm Hg 治療後 47.4 mm Hg、DFT 群は治療前 45.8 mm Hg、治療後 66.8 mm Hg (P < 0.05) となり、DFT 群において有意に改善傾向が認められた。

【考察】

LDL 吸着法と DFT 法の交互施行法は、Ig - M の著しい低下を防止しつつ両療法の利点を活かすことが可能で、単独療法よりも透析患者の ASO 治療に有効である可能性が示唆された。